

第60回指定都市子ども会育成研究協議会 横浜大会に参加して

ユース・リーダー 高森 誠

令和6年11月9日(土)から10日(日)まで、横浜ベイシェラトンホテルを会場として第60回指定都市子ども会育成研究協議会が行われました。熊本市からは、山本会長と2名で参加しました。

【横浜大会の主な内容】

9日(土)：アトラクション、開会式、講演、
分科会・地区推進研究会、情報交換会
10日(日)：地区推進研究会、閉会式

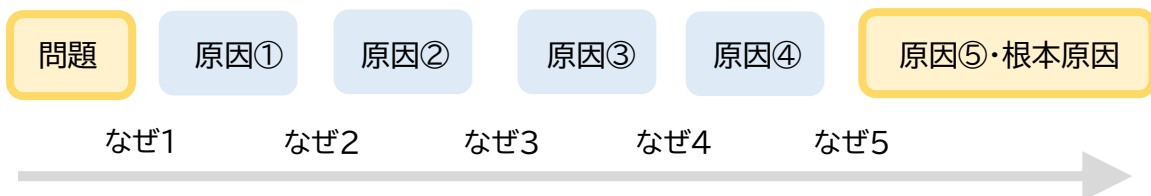


写真1：山本会長と大会会場にて

初日の9日(土)に行われた講演では、「地域でささえる子どもの居場所」をテーマに「一般社団法人かけはし」の代表理事：廣瀬さんの話がありました。横浜市の公立小学校で勤務されてきた中で、不登校児童との出会いがあったこと、一般社団法人かけはしを設立されるまでの経緯など、これまでの経験談を基に話される内容は、とても心に残る良い内容でした。「学校と家庭だけではない、子どもたちの居場所を作りたい」「不登校の子どもたちを地域でささえていきたい」という廣瀬さんの話を聞いて、学校と家庭だけではない、第3の居場所があるということは、子どもたちの成長に豊かな影響を与えると感ずることができました。また、地域で子どもたちを支えるなどの言葉は、子ども会活動にも通じるものがあると感じました。

講演の後には、分科会が行われました。私は地区推進研究会に参加し「子ども会組織の現状と課題」をテーマに、4つの班に分かれてグループ討議をしました。

グループ討議では、各グループでテーマを基に問題を設定し、その問題について「なぜなぜ分析」という方法を使って掘り下げて考えていきました。



「なぜなぜ分析」は、5回「なぜ」を繰り返すと、根本的な原因にたどり着くことができる分析方法だそうです。私たちのグループでは、問題を「子ども会の参加者が増えない」に設定し、話し合いを行いました。

原因①は、「子ども会活動についての周知不足」「イベントの魅力がない」「子ども会に加入している人しかイベントに参加できない」などの大きく3つの原因を立てました。そこから、さらになぜなぜを繰り返していき、「イベントの企画をできる人が少ない」「やる気がある人が少ない」「効果的な広報ができる人が少ない」などの意見が出て、根本の原因としては、「人材不足から始まる」とまとめました。

子ども会活動はポジティブな面がたくさんある一方で、問題として、単位子ども会の役員の方々の負担が大きかったり、担い手が少なかったりする現状があると思います。講演で「一人で悩んだり抱え込んだりすることは良くない」と廣瀬さんがおっしゃっていましたが、それは子ども会活動も同じだと思います。子ども会役員の方が一人で抱え込むことがないように、ジュニア・リーダー、ユース・リーダー、理事、事務局の方々など、みんなで支えあっていくことができればと感じます。

私たちのグループでは、なぜなぜ分析でのまとめを『人材不足から「始まる」』としたのは、さらにいろいろな原因があるとグループみんなで話し合った結果です。

グループ討論の最後は、班ごとに発表をし、それぞれの班の内容を聞くことができました。どの班もよくまとまっており、子ども会活動について考える良い機会となりました。

横浜大会を終えて

今回は、地区推進研究会でグループ討論があり、子ども会活動について改めて深く考えることができました。活発な議論を通して、他のユース・リーダーとも親睦を深めることができ、とても有意義な時間になりました。

今後の子ども会活動がさらによりよいものになるように、この横浜大会を通して学んだことを活動にいかしていきたいと思います。

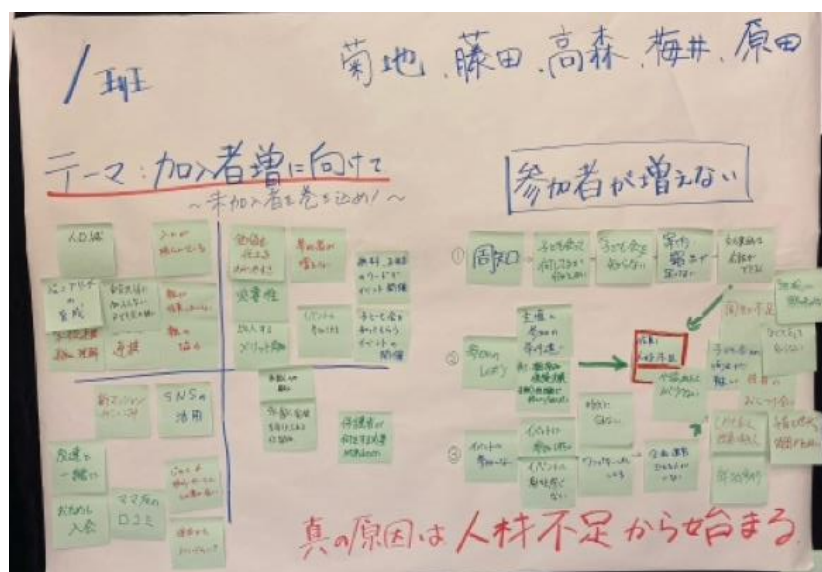


写真2：グループ討論でまとめた内容



写真3：班ごとの発表の様子



写真4：閉会式前に各指定都市の若手の方々と